

## 「くにとみ教育ビジョン」改定にあたって

平成25年度に策定しました「国富町教育振興基本計画～くにとみ教育ビジョン～」は、今後10年間の本町教育行政の方向性を示すため、町内各界の教育モニターから幅広い意見を集約し、その中で学識経験者や教育関係団体を代表する6名の方々を策定委員に委嘱してまとめたものです。

そのキーワードとして、「元気」「つながり」「ふるさと」「自立」を掲げ、具体的な取組を展開してきました。

全ての基盤となる「元気」には、一人1学習・1スポーツの推進による元気な地域の姿、知・徳・体の調和のとれた心身ともにたくましい子どもたちの姿を実現するという思いを込めています。

「つながり」には、横と縦のつながりを大事にしながら、地域づくりと子どもの教育を町民みんなで推進する姿、つながる・つなげることによる相乗的な効果と成果への期待を含めています。

「ふるさと」には、歴史や伝統、豊かな自然を大事にすることで郷土への愛着と誇りをもち、それを人づくりに活かそうと努める人々の姿を描きこんでいます。

そして「自立」には、これらを通して町民一人一人が主体的に自己実現を図り、子どもたちが自分を律しながら成長し自立に向けて努力し続ける姿を期待しています。

私たちが、それぞれのライフステージに応じた生きがいや希望をもって充実した日々を過ごすことが町を活性化し、次代を担う子どもたちがすくすくと成長することにつながる信じて、これまで5年間「くにとみ教育ビジョン」をもとにした具体的な施策を展開して参りました。

策定から5年を経過し、子どもたちを取り巻く環境はますます少子高齢化やグローバル化が加速し、情報社会も進みました。その間、国や県の教育振興基本計画も改定され、東京オリンピック・パラリンピック、2巡目国体の開催に向けた動きや、本町の文化的資源を生かしたフィールドミュージアム事業の推進など、新しい課題も出てきました。

そこで、今回「国富町教育振興基本計画～くにとみ教育ビジョン～」の後半5年分の計画として、改定版を策定することとしました。引き続き、町民の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、改定委員の皆様をはじめ、ご指導賜りました関係各位に心から感謝申しあげ、お礼の言葉とさせていただきます。

平成30年11月

国富町教育委員会 教育長 豊田 暎光

## 目 次

### I 国富町教育振興基本計画の策定にあたって

1	日本の教育、戦後教育の流れ	1
2	教育における今日的課題とこれからの教育	1
3	国富町の教育をめぐる現状と課題	2
4	計画の策定と位置づけ	3
5	計画の期間	3
※	「国富町教育振興基本計画」策定の構想	4

### II 国富町の生涯学習、学校教育、社会教育、家庭教育の現状と課題

1	生涯学習の現状と課題	5
2	学校教育の現状と課題	5
	(1) 児童生徒の学力	5
	(2) 児童生徒の体力	6
	(3) 豊かな心と人間関係	7
	(4) 家庭・地域の教育力	7
	(5) 児童生徒在籍数	8
3	社会教育、家庭教育の現状と課題	9
	(1) 少年教育、青年教育、成人教育、家庭教育	9
	(2) 文化の振興、文化財の保護と活用	10
	(3) 図書館	10
	(4) 社会体育	11

### III これからの国富の教育の方向

1	「くにとみ教育ビジョン」計画全体の概要	12
2	施策の体系	13
3	4つのキーワード「元気」「つながり」「ふるさと」「自立」	14
4	施策の目標	15
	目標Ⅰ 町民総ぐるみによる教育の推進	16
	目標Ⅱ 学校教育・就学前教育の充実	19
	目標Ⅲ 町民の健康と生きがいのづくりの推進	23
	目標Ⅳ 教育を支える体制や環境の整備充実	26

### IV 計画推進にあたって

1	財政的措置	28
2	町民の意見把握とその反映	28
3	計画の改定・見直し	28
4	計画進捗状況の点検・評価	28

# **1 国富町教育振興基本計画の策定にあたって**

## **1 日本の教育、戦後教育の流れ**

わが国には、盛んな藩教育により高い識字率を誇った江戸時代はもとより、明治時代以降も教育によって新しい国づくりを進めてきた歴史がある。

第二次世界大戦後、日本は世界有数の経済発展を遂げたが、まさに教育が国を蘇らせたと言ってよい。しかし、経済発展による豊かさは反面、教育に多くの弊害をもたらした。産業構造の変化により人口の都市集中が進み、核家族化の進行とともに地方の人口は減少した。家庭や地域社会の教育力は著しく弱体化していった。また、情報通信機器の普及は、子どもたちの直接的なコミュニケーションの場を減らし、社会性の伸長を妨げる要因となっている。さらにバブル崩壊以降、デフレ不況による農業や国内産業の衰退にともなって若い世代の就職難や深刻な所得格差、貧困などをもたらした。これらは、日本人の将来への不安、ひいては若い世代の夢の喪失に少なからずつながっている。かつては集団の中で鍛え上げられてきた日本人の精神的な強さも影をひそめ、若年層の自殺やいじめ、犯罪の増加などは、今日の大きな社会問題の一つとなっている。

## **2 教育における今日的課題とこれからの教育**

人づくり（教育）の視点に立って今日の日本の現状をみると、少子化にともなう学校教育上の課題や高齢化や経済格差による地域社会の連携の在り方などさまざまな問題が挙げられる。

これからの日本に必要なことは、グローバル化が進む世界の中で国の立ち位置をしっかりと定め、国際社会の中で確かな役割を果たすことができる日本を再構築することである。そのためには、「社会人として自立した人間の育成」はもちろんのこと、「国の課題を自分の問題として考えたり、身近な地域社会での活動へ積極的に参加したりする意欲と資質をもった人間の育成」を推し進めていかなければならない。

平成18年の教育基本法改正では、今日求められる教育の目的や理念、教育の実施に関する基本を定めるとともに、国及び地方公共団体の責務を明らかにし、「教育振興基本計画」を定めることなどについて規定された。世界の情勢が大きく変化しつつある

今日、新しい教育の姿とその具体化の方策を明確にすることが急務とされている。

文部科学省は平成20年に「教育振興基本計画」を作成した。その中で、「全ての子どもに、自立して社会で生きていく基礎を育てる」「社会を支え、発展させるとともに、国際社会をリードする人材」の育成に言及しているが、まさに教育の今日的課題に対応した基本政策である。さらに、平成25年には、「自立・協働・創造」をキーワードとする「第2期教育振興基本計画」を策定し、まもなく「第3期教育振興基本計画」が発表される。

宮崎県は、平成23年7月に「第二次教育振興基本計画」を策定し、平成27年9月の改定版では、「県民総ぐるみによる教育の推進」「社会を生き抜く基盤を育む教育の推進」「宮崎や日本、世界の将来を担う人財を育む教育の推進」「魅力ある教育を支える体制や環境の整備・充実」「生涯を通じて学び、文化・スポーツに親しむ社会づくりの推進」という5つの施策の目標を掲げている。学校教育はもちろんのこと社会教育を含む生涯学習について、その役割の重要性を強調している。

### 3 国富町の教育をめぐる現状と課題

町内には、国指定文化財である本庄古墳群をはじめとする多くの古墳が広く分布していることから分かるように、古代において現在の国富は諸県地域の中心であった。

中世においても諸県荘の中心地であったが、南北朝から戦国期には近隣諸大名の争いの場となった。しかし、江戸元禄期以降本庄は御料地（天領）となり商業が発展し、多くの富豪が出た。明治期には、名を知られた儒学者を輩出し、教育に対する関心が極めて高い地域といえる。

町内の小中学校は、旧4か村（本庄、森永、八代、木脇）に設置された。それぞれ長い歴史と伝統を有し、地域との結びつきも強いものがある。平成21年度には旧八代村の3つの小学校が統合され、それまで9校あった小中学校は7校になった。平成30年5月1日現在、町内の小学校の児童数は958名、中学校の生徒数は452名であるが、漸減傾向にある。少子化は、学校教育に少なからず影響を及ぼしており、社会性の育成や切磋琢磨の機会の減少をもたらしている。

三世代家族の占める割合は高く、高齢者の学校教育への協力や子ども見守り活動、高齢者も含めた生涯学習活動は極めて活発である。地域行事への子どもたちの参加率もよく、地域の教育力は高いといえる。

このように、国富町は、他市町村にない優れた歴史的・文化的な教育的資源と人材、豊かな自然環境に恵まれている。国富町の教育を考える場合には、これらを十分に生か

しながらの人づくりを考えていく必要がある。

## 4 計画の策定と位置づけ

「第五次国富町総合計画」（2011年度～2020年度）では、このような町の実態を踏まえ、第3章[時代を切り拓くための基本理念]として『人が・地域が・まちが「元気」な健康田園都市 i ハートくにとみ』（第1節）を今後の望ましい姿として掲げ、さらに第3節の1「心豊かでいきいきと輝く人づくり」のために、第2部基本計画第1章で施策展開の体系に「未来を切り拓く元気な人づくり」「生涯学習ではぐくむ豊かな心づくり」「歴史と文化香るふるさとづくり」「いきいきと楽しむスポーツづくり」の4つを挙げている。

これらを踏まえて国富町教育委員会では、将来の国富町を見すえ、町民一人一人が心身ともに健康で、いきいきと生涯を送ることができる社会の実現をめざし、今後10年間の人づくり、教育の方向を定めた「国富町教育振興基本計画～くにとみ教育ビジョン～」を策定することとした。

## 5 計画の期間

本計画は、2013年度（平成25年度）から2022年度（平成34年度）までの10年間とする。なお、改定後の計画は2018年度から2022年度の5年間とする。

# 「国富町教育振興基本計画～くにとみ教育ビジョン～」策定の構想

## 1 計画策定の趣旨

- (1) 教育基本法の改正により、国の基本計画をふまえて県や市町村でも教育の振興のための施策に関する基本的な計画を定めることが義務付けられた。(同法第17条)
- (2) 宮崎県では「宮崎県総合計画～未来みやざき創造プラン～」に基づき、平成23年7月に今後10年間を目途とする「第二次宮崎県教育振興基本計画」が策定され(平成27年9月に改定)、総合的かつ計画的な取組がスタートした。
- (3) 「第五次国富町総合計画」(2011年度～2020年度の10年間)を受け、さらに具体的な教育ビジョンを策定して、「未来に希望のもてる国富を創り支える教育の展開」を目指すこととした。

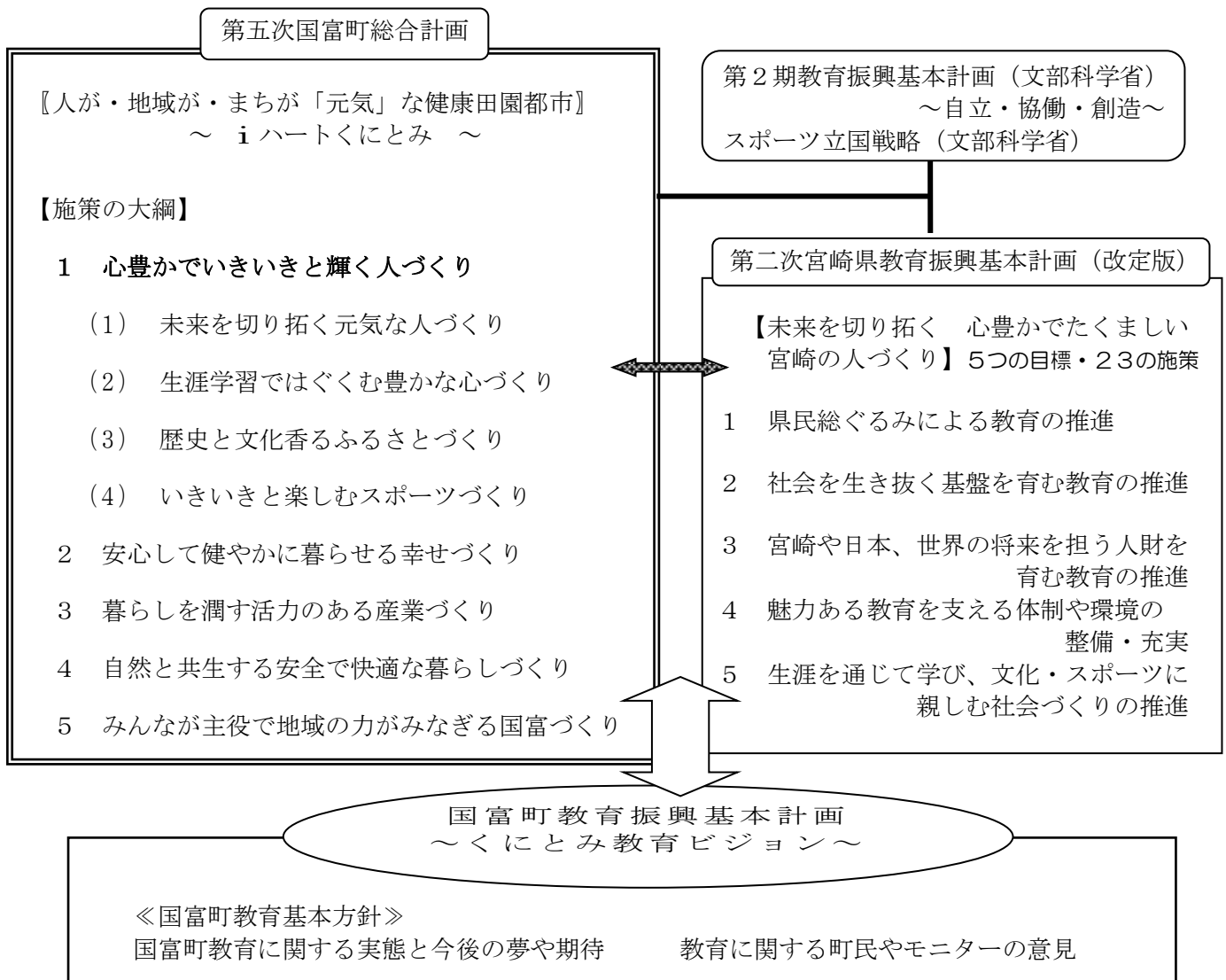
## 2 計画の期間

本計画は、2013年度(平成25年度)から2022年度(平成34年度)までの10年間の計画とする。なお、改定後の計画は2018年度から2022年度の5年間とする。

## 3 計画策定までの道筋

町内の幅広い分野からの代表者による協議をすすめ素案を作成する。さらに、首長部局の意見やパブリックコメントを求めながら計画を策定し教育委員会に諮り、策定した基本計画は、広く公表する。

## 4 計画の体系と基本構想



## **II 国富町の生涯学習、学校教育、社会教育、家庭教育の**

### **現状と課題**

#### **1 生涯学習の現状と課題**

生涯学習体系への移行が叫ばれる中で、物の豊かさから心の豊かさへの志向の変化とともに、本町においても余暇時間を活用した生きがいづくりや各種学習機会へのニーズが高まってきている。

今後ますます、それぞれのライフステージに応じた学習が展開されていく必要があり、多彩な学習ニーズに応える学習内容の充実や学習機会の拡充が求められる。

そのためには、行政機関のみならず、関係機関やボランティア、自主的な学習グループなど、町内のそれぞれの組織や団体等で行っている事業を町民の視点から総合的に見直し、体系化して一人一人の自己実現が図られるような体制づくりが必要である。

そのためにはまず実情をしっかりと把握し、町総合計画に掲げる「心豊かでいきいきと輝く人づくり」をめざした施策を展開していかなければならない。学習機会の拡充や学習情報提供の工夫などを通して、「いつでも・どこでも・だれでも」生涯学習・生涯スポーツに親しめる町にしたい。

#### **2 学校教育の現状と課題**

小中学校における教育の目的や目標は、教育基本法及び学校教育法に示されている。本町でもこれらを受け、知・徳・体の調和のとれた児童生徒の育成をめざし、全小中学校が一体となって学校教育の充実発展に努めるとともに、子どもたちを取り巻く諸々の教育環境の整備や家庭教育の充実が求められている。

とりわけ、確かな学力の向上、豊かな心を育む教育の充実、体育や食育の推進による「生きる力」の育成は、本町でも今後の最重要課題である。

##### **(1) 児童生徒の学力**

町内の児童生徒の学力は、県内では平均的な位置にあるが、上位と下位の差が大きいのが実態である。さらに、高校進学時の進路選択においては、宮崎市内の子どもた

ちとの競争にさらされるという厳しい現実がある。

今後は下位の子どもたちの学力を向上させることはもちろん、将来の夢の実現のためにも、町内全ての子どもたちのさらなる学力向上を図る手立てを講じていくことが必要である。

町内小中学校では、中学校ブロックごとに、学習指導と生徒指導の両面で小中一貫した指導を行っており、小学校と中学校の学習指導方法や学習訓練、学習習慣等の面において系統立った指導の成果が見られるようになってきた。

本町児童生徒の学力向上のためには、学校においては教師の指導力を高めるための校内研究の充実、家庭においては望ましい学習習慣や生活習慣の形成が欠かせない。また、幼稚園・保育園と小学校との接続、小学校と中学校との接続を円滑なものにして子どもたちが安心して学べる環境を整える努力も忘れてはならない。

国富町学力向上推進協議会を中心とした町全体の学力向上の取組をさらに推進することはもとより、町校長会、町教頭会、町PTA連絡協議会、町教育研究会など、各種関係団体や組織のそれぞれの活動の充実と、さらにそれらの連携のもとに、児童生徒の学力向上を図っていくことが求められる。

## (2) 児童生徒の体力

「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果と照らし合わせてみると、本町の児童生徒の体力は概ね平均的である。しかし、運動する子どもとしない子どもの二極化傾向が見られる点は全国的な傾向でもあり、本町も例外ではない。

このことは、少子化にともなう遊び集団の減少、電子ゲーム機やスマートフォン等の普及、事故や犯罪への不安からくる屋外遊びの減少も大きく影響していると考えられる。

学校においては、体育、保健体育の時間における運動量の確保はもちろんであるが、屋外で身体を動かす時間の確保や校庭の遊具の工夫、全校挙げてのストレッチ運動やなわとび運動、持久走の時間の設定等に取り組んでいる。

また、スポーツ少年団活動に対する支援とともに、日常生活の中での運動や身体を動かす遊びの機会と環境を保障し奨励していくことが重要である。



### (3) 豊かな心と人間関係

本町の子どもたちは、純朴で素直な側面と、テレビ、雑誌、インターネットなどからもたらされる情報に左右されやすい側面をあわせもっている。あいさつがよくでき、明るく素直であり、指導を受け入れる姿勢が良好であり、穏やかで従順な学校生活を送ることができている反面、情報社会の中で自ら思考し判断するなど自主性や主体性の面においては課題がみられ、日常の人間関係の上でもたくましがやや不足している面がみられる。

今後は、純朴で素直な面を認めつつも、強い精神力をそなえ、主体的で能動的、積極的な生き方を育む教育の充実が求められている。

また、生徒指導上の諸問題に関しては、学校と家庭、地域、関係諸機関の連携を密にし、子どもの人間関係を注意深く見守り適時適切な指導を行うとともに、家庭教育を支援する体制を整備することが必要である。

子どもたちが強い精神力をそなえてたくましく成長するためには、家庭、学校、地域がそれぞれに人間関係の絆を深める場でなければならない。

### (4) 家庭・地域の教育力

保護者の学校教育に対する関心は高く、地域の方々の学校行事に対する協力も非常に積極的である。保護者は学校に対して協力的であり参観日の出席率も高い。

朝の登校指導を兼ねて、保護者や地域の方々が街頭に立ち子どもたちと笑顔であいさつを交わす様子は、本町では日常的にみられる光景である。

このように、本町では、地域住民の支えがあって、子どもたちは安心して安全な環境の中で楽しい学校生活を送っているといえる。

一方、保護者の抱える不安の中では、家庭での生活習慣や学習習慣の形成に関するものが大多数を占めており、さまざまな要因により家庭生活の基本的なリズムが整っていない家庭が多いことが考えられる。

町では、子育て講演会の開催や、家庭教育学級を通じた家庭教育の充実を図る学習機会を設けているが、こうした学習の場に足を運ばない、あるいは運べない保護者が数多くいる実態もある。

今後は、さらに学校と家庭、地域が連携し、家庭生活における基本的な習慣形成が図られるような手立てが必要である。また、地域社会が家庭を支える意識づくりが期待される。

## (5) 児童生徒在籍数

平成30年度の児童生徒在籍数は1,410名であるが、4年後には約1,300名となる見込みであり、斬減傾向は続くと予想される。学級数が減り学校が小規模化していく中で、児童生徒一人一人へのきめ細かな行き届いた指導が可能になることが考えられる反面、たくましさや競争心等の集団活動を通じた社会性を育む教育をどう保障するかがますます課題となっていくことが考えられる。

その対策の一環として、現在は、国富町と綾町合同の小学校高学年児童による水泳記録会や陸上記録会、同じく2町合同の小中学校音楽大会を開催している。また、中学校では町内全生徒参加による中学生講演会や生徒会役員の交流・意見交換を行う中学生サミットを開催している。

今後により積極的に学校間・校種間の枠を超えた集団活動推進の工夫が望まれる。

### ※予想される児童生徒数の推移

(単位:人)

	2017	2018(H30)	2019	2020	2021	2022
本庄小	353	367	373	363	373	378
森永小	126	116	113	98	91	84
八代小	129	137	141	135	123	120
木脇小	348	338	314	297	296	280
<b>小学校計</b>	<b>956</b>	<b>958</b>	<b>941</b>	<b>893</b>	<b>883</b>	<b>862</b>
本庄中	263	246	231	228	221	222
八代中	59	51	53	57	62	67
木脇中	178	155	160	159	162	153
<b>中学校計</b>	<b>500</b>	<b>452</b>	<b>444</b>	<b>444</b>	<b>445</b>	<b>442</b>
<b>小・中合計</b>	<b>1,456</b>	<b>1,410</b>	<b>1,385</b>	<b>1,337</b>	<b>1,328</b>	<b>1,304</b>

### 3 社会教育、家庭教育の現状と課題

教育委員会では、子どもたちは元気な地域社会でこそ育つという考えのもとに全ての町民に対する生涯学習の推進に力を入れている。その企画や運営、施設の維持・管理などについては、毎年度作成の「社会教育行政計画」に基づいて実施している。

#### (1) 少年教育、青年教育、成人教育、家庭教育

少年教育、青年教育、成人教育、家庭教育のいずれもが、元気な町民を育てるための重要な領域であり、一人一人が各種行事や集団活動への参加を通して、地域社会への所属感・一体感をもち、自己実現を図れるようになることをねらいとしている。

人間関係が希薄化し、家庭や地域における教育力の低下が指摘されている今日、少年教育では、子どもたちに豊かな知識や創造性を育むため、家庭内の読書、読み聞かせ講座等の学習活動や、地域の産業に従事する方々、豊かな自然、脈々と伝承された文化等に触れながら、個々の生活力の向上や地域住民と喜びを分かち合うような体験学習の拡充が求められている。

地域の子ども会活動やスポーツ少年団活動は、社会性の伸長、とりわけ異学年間の人間関係づくりの面で貴重な場となっている。子どもたちの主体的な活動の場として、さらに活動内容の充実が求められる。

また、地域ぐるみで学校教育を支援するため、地域ボランティアと児童生徒とのふれあいや農作業等の協働学習など、地域住民と学校、子どもたちとの連携を深める取組が大切である。

青年教育では、地域社会におけるボランティア活動や文化的活動等を通して、活力ある地域づくりを推進するなど将来を担う有能な人材の育成を図ることが必要である。

成人教育では、生涯学習に対する意欲は年々高まってきているが、働き盛りの方々にも積極的に参加していただける学習機会の確保と自発的な学習意欲の喚起が課題である。

このように、町民のライフステージに応じたさまざまな学習ニーズに対応するため、学習情報の収集・提供、学習機会の拡充、自主的な学習グループの育成、学習内容の充実が求められている。

家庭教育では、PTA活動の活性化を進めるとともに、家庭での教育力の向上を図るため、保護者に対する啓発や子育て講演会、家庭教育学級の充実に努めることが求められる。

今後も、個々の事業の成果や課題を見極めながら、生涯学習の拠点となる農村環境改善センターの環境整備や各種団体への支援体制づくりを推進していかねばならない。

## (2) 文化の振興、文化財の保護と活用

町総合文化会館を拠点として、年間をとおして計画的に町文化協会所属団体や個人の芸術・文芸活動を支援し、文化活動の振興を図っている。文化財保護活動としては、国指定文化財（本庄古墳群、万福寺の木造阿弥陀如来他）をはじめ、数多く残る史跡や文化財の調査・整備、伝統ある民俗芸能の保存・継承を行っている。

昭和63年からは、毎年「国富町ふれあい短歌大会」を開催し、県内でも有数の短歌推進の町として知られている。

国富町総合町民祭は町民挙げての一大文化イベントであり、役場庁舎周辺を会場にして芸術文化活動や生涯学習の成果を広く町民に紹介しており、町外からも多数の参加者がある。

町内の多くの有形・無形文化財、史跡やその歴史を認識してもらうこと、また芸術文化活動を広く町民に理解してもらうことは、国富町を愛し、誇りに思う気持ちを育むという大きな教育的意義を有する。本町は古くから文化の開けたところにあり、地域に残された歴史・文化資源の掘り起こしや調査をすすめながら、町民文化として保存・活用していくことが重要である。そこで、町内に点在する資源を来訪者が巡る博物館活動「フィールドミュージアム」事業に取り組み、今後それをさらに推進していきたい。

## (3) 図書館

平成17年にオープンした国富町立図書館は、長期的な蔵書計画に基づき資料の整備に努めるとともに、利用者のニーズに応じた館内閲覧環境や貸出システムの効率化を図っている。開館当初は、図書館入館者数、貸出冊数ともに年々増加していたが、平成29年度では、年間入館者数が約54,000人、1日の平均が約200人であり、ほぼ横ばい状況となっている。

そこで、利用しやすい親しみある図書館づくりのため、館内で毎月図書のテーマ展示を行い、司書やボランティアによる絵本の読み聞かせ、図書館のエントランスを利用した絵画展示や学校と連携した児童生徒の作品展示、図書館会議室での上映会など

を実施している。また、夏休み期間中には小学生の読書推進のために「なつやすみどくしょノート」を配布した。PR活動としては、「広報くにとみ」による新刊案内や事業案内はもとより、図書館だよりも毎月発行している。さらには、インターネットでの図書館ホームページによる新しい情報の発信、ネット上での蔵書の確認や予約など、利便性の向上に努めている。

今後も、読書普及活動や読み聞かせボランティア団体等の支援を行いながら、町民の読書意欲向上だけでなく、情報交換施設、学習施設としても大きな役割を担っていききたい。

#### **(4) 社会体育**

スポーツを通して、町民の健康保持・増進や体力の向上を図ることは、明るい豊かな郷土づくり、元気な町づくりの土台であるとともに、地域社会の絆を育む意識の高揚にもつながっている。

旧小学校区を単位とする地区では、町民総スポーツの振興及びコミュニティスポーツの推進を図るため、区長、体育部長及びスポーツ推進委員で構成する地区体育会を組織し、各種スポーツ大会を開催することで、自己の健康維持や運動の習慣化、定着化に努め、地区民の健康維持と、人と人との交流促進や生きがいをづくりに効果を上げている。

また町民参加のスポーツ大会や青少年の健全育成を目的としたスポーツ少年団活動、各種スポーツ協会を中心としたスポーツ活動が盛んであり、「一人1スポーツ」を合言葉に、元気な町づくりを推進している。

今後も、国の「スポーツ立国戦略」に基づき、する人、観る人、支える（育てる）人を重視した考え方のもと、地区体育会、各種スポーツ協会等の活動推進はもとより、専門的な知識をもった指導者の育成、町民の各ライフステージにおいて気軽に楽しめるニュースポーツやレクリエーションの普及推進のための環境づくりに努めたい。

また、2020年の東京オリンピック、そして、2026年の宮崎国体開催の機会を捉え、アリーナくにとみを中心としたスポーツや健康づくり行事を進めていきたい。

# くにとみ教育ビジョン

「心豊かでいきいきと輝く人づくり」

## 自立

夢や希望をもって未来を切り拓き、いきいきと人生を楽しむ

### つながり

地域づくりと子どもの教育を  
全ての町民で推進する

#### 横のつながり（連携）

- ア 町民みんなで、安全で楽しく強い絆の地域づくりに取り組みます。
- イ 学校・家庭・地域で連携して、将来を担う子どもを守り、育てます。
- ウ 地域の子育て支援、学校支援体制づくりを進めます。

#### 縦のつながり（一貫）

- ア 幼児教育から小中学校まで、一貫した教育を推進します。
- イ 学校や幼児教育機関相互の連携を推進します。
- ウ 心ふれあう世代間交流事業を促進します。

### ふるさと

歴史や伝統・豊かな自然を守り、  
人づくりに活かす

#### 郷土愛に支えられた国富ならではの教育

##### <ふるさとを愛する人づくり>

- ア 豊かな自然環境を大切に守ろうとする心を育てます。
- イ 「くにとみ学」や町民のふれあいを通して、国富を愛し、大切に思う心を育てます。

##### <伝統と文化の保護・活用促進>

- ア フィールドミュージアム構想を核として、伝統文化や古墳・史跡の保全と整備により、教育への積極的な活用を進め、町の活性化に活かします。
- イ 生涯学習講座等を通して、伝統と文化の保護と活用を進めます。
- ウ 文化関連施設の整備、文化的行事の充実を図ります。

## 元気

生涯にわたる町民の学習と  
健康づくりを充実する

#### 一人1学習・1スポーツの推進

##### <生きがいを育てる生涯学習の推進>

- ア 個性を發揮し、絆を深める各種講座を充実します。
- イ ライフステージに応じた自己実現の活動を支援します。

##### <スポーツ、レクリエーション活動と健康づくりの推進>

- ア スポーツ環境を整備するとともに、指導者の育成や組織の活性化を図ります。
- イ アリーナくにとみを拠点に、スポーツや健康づくりを図ります。

活気あふれる学校教育を創造する

#### 未来を切り拓く生きる力の育成

##### <確かな学力と豊かな心を持ち、

##### 心身ともにたくましい子どもの育成>

- ア 授業の工夫改善を進め、子どもの学ぶ意欲と学力を保障します。
- イ 生命尊重の心、強い精神力を育みます。
- ウ キャリア教育や食育・体育、特別支援教育充実のための教育内容の整備を進めます。

##### <教育諸条件の整備>

- ア 教職員の研修を充実し資質向上を図ります。
- イ 教育施設・設備など教育環境の整備・充実を図ります。
- ウ 教育に関する相談体制を充実し、就学を円滑に進めます。

## 施策の体系

### 目標Ⅰ 町民総ぐるみによる教育の推進

#### つながり

- 施策1) 学校・家庭や地域の教育関係団体が一体となった取組の推進
  - ① 教育に関する町民の意識高揚
  - ② 安全で楽しく強い絆の地域づくり
  - ③ 子育て支援のネットワーク構築
- 施策2) 家庭や地域の教育力の向上
  - ① 家庭の教育力を高める取組の充実
  - ② 地域の教育力を高める取組の充実
  - ③ PTA活動の活性化支援
- 施策3) 開かれた学校づくりの推進
  - ① 地域との連携推進
  - ② 学校教育の公開推進

### 目標Ⅱ 学校教育・就学前教育の充実

#### つながり ふるさと 自立

- 施策1) 「生きる力」を身に付けた児童生徒の育成
  - ① 学力の向上をめざす教育の推進
  - ② 豊かな心を育む教育の推進
  - ③ キャリア教育の推進
  - ④ いじめ・不登校対策の推進
  - ⑤ ふるさと教育、伝統文化教育の推進
  - ⑥ 体育、食育の充実
  - ⑦ 人権教育の推進
  - ⑧ 特別支援教育の推進
  - ⑨ 外国語教育・国際理解教育の推進
  - ⑩ 防災教育の推進
  - ⑪ 情報教育の推進
- 施策2) 小中学校の連携と接続
  - ① 全町的な小中学校の取組の推進
  - ② 中学校ブロックごとの取組の推進
  - ③ 小中一貫校の検討
- 施策3) 就学前教育の充実と小学校との連携推進
  - ① 保育・教育内容の充実と幼保小連携推進
  - ② 放課後子ども教室の充実

### 目標Ⅲ 町民の健康と生きがいづくりの推進

#### 元気 つながり ふるさと 自立

- 施策1) 生きがいを高める生涯学習の推進
  - ① ライフステージに応じた学習の充実
  - ② 特色ある文化、芸能活動の支援
  - ③ 「短歌の町づくり」推進
- 施策2) 伝統文化、史跡を活かした町づくりの推進
  - ① 史跡や文化財の保護と活用
  - ② 文化継承活動の推進
  - ③ フィールドミュージアム事業の展開
- 施策3) スポーツ活動と健康づくりの推進
  - ① スポーツ、レクリエーション環境の整備
  - ② スポーツ、レクリエーション指導者の育成
  - ③ スポーツ、レクリエーション活動や健康づくり事業の充実

### 目標Ⅳ 教育を支える体制や環境の整備充実

#### つながり

- 施策1) 質の高い教育を支える教育環境の整備
  - ① 人的・物的整備、働き方改革
  - ② 情報管理
  - ③ 広域的な教育の連携、ネットワーク化
- 施策2) 教育条件の整備
  - ① 教職員の資質向上
  - ② 教育施設、設備の充実
  - ③ 相談体制充実

### III これからの国富の教育の方向

本計画における「今後10年間を見通した教育の方向」については、以下に示す4つのキーワードをふまえ、これを取り込んだ4つの「施策の目標」を設定する。施策遂行にあたっては総合的かつ計画的に取り組むため、「横と縦のつながり」を重視しながら、子どもたちを含む町民一人一人の自立をめざしたい。

#### 1 「くにとみ教育ビジョン（改定版）」計画全体の概要（P. 12）

#### 2 施策の体系（P. 13）

#### 3 4つのキーワード「元気」「つながり」「ふるさと」「自立」

**「元気」** <一人1学習・1スポーツの推進 生きる力の育成> **大人も子どもも  
みんな元気**

心身ともに健康な住民が町の活気を生む原動力となる。子どもを含めた全ての町民が、日常的に身体を動かしたり、文化的な活動に参加したりすることで、喜びを感じ合い心身の健康を維持することができる。学校においても同様であり、心身の健康をもととして笑顔と活気あふれる学校教育が実現できる。

**「つながり」** <豊かな人間関係と地域づくり> **地域みんなが  
手を取り合って**

社会生活を営む上での人間関係は重要な要素であるが、近年の少子高齢化は、この国富町においてもさまざまな課題を生じさせている。

子どもの減少は、地域における子ども社会の喪失とともに、世代間の交流をも希薄にしている。本町でも例外ではない高齢化は、高齢者の安全・安心の問題をもひき起す。このような状況において、子どもの教育や高齢者の安全はもとより、町民全てが生きがいをもち、自己の成長を図るためには、人と人との「つながり」は欠かすことができない。

国富町は、豊かな人情と厚い人間関係に恵まれており、「つながり」を最大限に生かした「町づくり」「人づくり」が期待できる。



### 【施策実施における「横と縦のつながり」の重視】

地域の絆を深め、学校教育、社会教育、家庭教育という教育の場の垣根、および学校間や教育行政各部門間の垣根を低くすることにより、従来のそれぞれの成果を大きく上回る相乗効果が期待できる。それぞれの組織の見直しを行って組織マネジメントを高めるとともに、目標の共有と施策の調整を絶えず行うことが肝要である。（横のつながり）

幼児から高齢者までの、生涯学習体系を構築するとともに、それぞれの持ち味を積極的に生かすことができる場と機会を充実し、地域づくり・町づくり・学校づくりを推進する。また、幼・保・小・中の連携や、小中一貫校の検討も進めていかなければならない。（縦のつながり）

#### 「ふるさと」 <郷土愛、歴史と伝統・文化の振興> 生かそう自然

##### 歴史と伝統

ふるさとの豊かな自然や人情味あふれる人々、そして先人から何世代にも渡って受け継がれた文化の力は、生涯の精神的な支えとなる。幼年期から高齢期に至るまで、郷土の素晴らしさを理解する多くの機会を用意することは、本町教育の重要なテーマの一つである。

#### 「自立」 <夢や希望をもって未来を切り拓く> 一人一人がいきいきと

##### 人生を楽しむ

先行き不透明な時代にあって、社会をたくましく生き抜き、夢と希望をもって未来を切り拓き大きくはばたく力と主体的な行動力をそなえた人間の育成が国富の教育がめざす最終的な姿である。

## 4 施策の目標

今後を見通した教育の実現に向け、次の4つを「施策の目標」とする。

「第五次国富町総合計画」第2部第1章との対応

- I 町民総ぐるみによる教育の推進
- II 学校教育・就学前教育の充実
- III 町民の健康と生きがいつくりの推進
- IV 教育を支える体制や環境の整備充実

- 第1節 未来を切り拓く元気な人づくり
- 第2節 生涯学習ではぐくむ豊かな心づくり
- 第3節 歴史と文化香るふるさとづくり
- 第4節 いきいきと楽しむスポーツづくり

## 目標Ⅰ 町民総ぐるみによる教育の推進

<関連するキーワード> 「つながり」

### 【現状・課題と対応】

少子高齢化は国富町も例外ではない。地域における人と人とのつながりの希薄化は、地域の教育力の低下となり、地域全体で子どもを育てることが難しくなりつつある。そのような中、「どの子どもも国富町みんなの子どもである」という意識をもち、町民一人一人が町の子どもたちの教育に関心をもつとともに、町全体で教育の課題を共有し、自己実現を目指しながら、みんなで「教育の町・国富」に向かって前進していきたい。

### 施策1) 学校・家庭や地域の教育関係団体が一体となった取組の推進

当面する教育課題を共有するとともに、既存組織の活性化及び連絡調整の推進を図る。

#### ① 教育に関する町民の意識高揚

- 教育委員会ホームページの充実
- 各種広報の充実
- 「夏休みの補習教室」等における地域人材の活用
- 毎月1日「あいさつの日」、15日「読書の日」の推進
- 地域と連携したふるさと教育の推進
- オープンスクール、道徳参観日等の推進
- 町民参加の教育講演会の企画・開催

#### ② 安全で楽しく強い絆の地域づくり

- 地域での登下校見守り活動の推進
- 青少年育成町民会議の充実
- 世代間交流事業の推進
- 地域行事への児童生徒の参加促進
- クリーン国富事業への児童生徒の参加促進
- 学校支援地域本部事業の拡充

### ③ 子育て支援のネットワーク構築

- 「子育て支援センター」の充実
- 「国富町ハートフルネットワーク」を核とした行政・学校・保護者間の相談体制確立
- 各地区民生児童委員、各地区役員等と学校の連携促進
- 児童館と学校の連携促進
- 放課後子ども教室の充実

## 施策2) 家庭や地域の教育力の向上

家庭や地域の教育力を高めるため、学校・PTA・行政や地域の関係諸団体が連携して取り組むほか、家庭の子育てを支援する体制を整える。

### ① 家庭の教育力を高める取組の充実

- 「家庭教育啓発だより」「学力向上推進協議会だより」の発行等、広報啓発活動の充実
- 家庭生活や教育に対する相談支援体制の充実
- 家庭における基本的な生活習慣づくりに向けた取組の推進
- 子育て講演会の充実

### ② 地域の教育力を高める取組の充実

- 各地区民生児童委員、各地区役員等と学校の連携促進
- 青パト巡回活動の推進
- 子ども会やスポーツ少年団等の活動推進

### ③ P T A活動の活性化支援

- 町P T A連絡協議会と学校・行政の連携推進

### 施策3) 開かれた学校づくりの推進

子どもの教育的課題を家庭や地域と共有するために、町内全ての学校の取組についての情報を提供し、町民の学校教育に対する関心と意識の高揚を図る。

#### ① 地域との連携推進

- 地域と連携したふるさと教育の推進
- 地域人材の活用
- 学校支援ボランティア活動への支援
- 学校支援地域本部事業の拡充

#### ② 学校教育の公開推進

- 社会に開かれた教育課程の工夫
- 学校ホームページの充実
- 学校だより等による積極的な情報発信
- 学校評議員制度の充実・活用
- 学校関係者評価委員会の充実と評価結果の公表
- 保護者参観日や地域参観日、オープンスクール等の充実
- 地域の方々との交流事業等の充実

## 目標Ⅱ 学校教育・就学前教育の充実

＜関連するキーワード＞ 「つながり」「ふるさと」「自立」

### 【現状・課題と対応】

教育の最終目標は、一人一人の自己実現と自立した有為な社会人を育てることである。全ての小中学校が児童生徒の「生きる力」を育むための基本的な課題に対処するとともに、町の豊かな自然や歴史と伝統、人材を最大限に活用した教育を推進することで、すぐれた教育の成果が期待される。また、小学校就学前教育の充実、および幼稚園・保育園と小学校との連携は、小中学校間の接続を核とする一貫した教育を推進する上で重要な課題である。

### 施策1) 「生きる力」を身に付けた児童生徒の育成

自立した社会人として必要な学力、体力やコミュニケーション能力をもち、主体的に判断し行動できる児童生徒の育成を図ることは町の重要な教育的課題である。

宮崎市に隣接した本町は中学校卒業後の進路選択において厳しい面があることをふまえ、学力の向上やキャリア教育を重視するとともに、知・徳・体の調和のとれた心身ともにたくましい子どもの育成をめざす。

#### ① 学力の向上をめざす教育の推進

- 町学力向上推進協議会を中心とした取組の推進
- 学校における職員研修の充実とOJT推進
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫・改善
- 全国学力学習状況調査等の各種テストの分析と活用
- 授業力の向上に向けた学校支援の充実
- 学校生活における学習習慣、生活習慣づくりと立腰指導
- 家庭生活における学習習慣、生活習慣づくりの指導
- 学校における学力向上のマネジメントサイクル確立
- 教育機器や学校図書館を活用した「わかる授業」の展開
- 小学校補助職員、中学校補助教員の活用
- 町教育研究センターの研究成果の活用
- 町教育研究会との連携、支援

## ② 豊かな心を育む教育の推進

- 道徳教育の充実
- 自然体験活動、社会体験活動など豊かな体験活動の充実
- 芸術・文化活動の推進
- 国富町子ども読書活動推進計画に基づく読書活動の推進
- あいさつ運動の推進
- 青少年赤十字活動の推進

## ③ キャリア教育の推進

- 将来の夢や希望を育てる講演会や発表会の充実
- 小中連携によるキャリア教育の推進
- 社会体験、職業体験への参加

## ④ いじめ・不登校対策の推進

- いじめ防止基本方針に基づく取り組みの推進
- いじめ・不登校対策委員会の充実
- 教育相談訪問等による学校の取り組みの支援

## ⑤ ふるさと教育、伝統文化教育の推進

- 総合的な学習の時間「くにとみ学」におけるふるさと教育や伝統文化教育の推進
- 地域（歴史・文化・産業・自然・人）を知る教育活動の推進  
国富町フィールドミュージアム構想と連動し、「国富の良さ」「国富らしさ」に気づき、郷土に対する誇りをもつ教育活動の推進
- 地域人材の活用促進

## ⑥ 体育、食育の充実

- 立腰指導の充実
- 「体力向上プラン」に基づく体力・運動能力の向上
- 「食に関する指導の全体計画」に基づく食育の充実
- 学校給食の充実と望ましい食習慣の形成
- 「弁当の日」の取組の充実
- 歯科保健推進協議会との連携

- 小中学校アレルギー疾患対応連絡協議会の取組の充実
- 「学校安全計画」に基づく安全に関する取組の充実

#### ⑦ 人権教育の推進

- 「いじめ防止基本方針」に基づく取組の徹底
- 人権教育に係る研修会の充実
- 町ハートフルネットワークを核とする関係機関との連携
- 性別による差別や性的少数者への差別などに対する教育の推進

#### ⑧ 特別支援教育の推進

- 「個別の教育支援計画」の活用による一貫した相談・支援の充実
- 子どもや保護者のニーズに応じた教育の推進
- 町就学指導委員会の充実
- 特別支援教育コーディネータの専門性及び資質の向上

#### ⑨ 外国語教育・国際理解教育の推進

- 生きた英語教育の推進
- 小学校における外国語活動・外国語科の指導の充実
- 国際交流活動の推進
- A L Tの活用推進

#### ⑩ 防災教育の推進

- 「学校安全計画」に基づく防災教育の充実
- 「防災の日」をはじめとする各種避難訓練の充実

#### ⑪ 情報教育の推進

- 情報モラルに関する教育の充実
- 教員の I C T活用指導力の向上と教科指導における I C T活用の推進
- プログラミング教育の充実

## 施策2) 小中学校の連携と接続

本町では、本庄中学校を除き、1校の小学校からそのまま中学校へ進学している。人間関係の固定化によって引き起こされる問題へ適切に対処する一方で、スムーズな小中学校間の接続を図り、効果的な教育を進めていかなければならない。また、小中一貫校の実現に向けて、そのメリット、デメリットについて、十分研究する。

### ① 全町的な小中学校の取組の推進

- 毎月1日の「あいさつの日」や毎月15日の「読書の日」の取組の推進
- 小中学校9か年を見通した総合的な学習の時間「くにとみ学」の充実

### ② 中学校ブロックごとの取組の推進

- 教育内容の系統化・重点化
- 小中学校相互の乗り入れ授業の推進
- 小中一貫した学習習慣、生活習慣の確立
- 小中一貫した生徒指導の充実

### ③ 小中一貫校の検討

- 9か年を見通した教育課程の研究
- 一貫教育推進プランの策定

## 施策3) 就学前教育の充実と小学校との連携推進

幼稚園・保育園等と小学校との連携を密にし、必要な情報交換を行うことで、義務教育に対する保護者の理解を深め、円滑な小学校就学を実現しその後の教育効果につなげる。

### ① 保育・教育内容の充実と幼保小連携推進

- 幼保小連携推進による職員の指導力向上
- 幼児と児童とのふれあいなど特色ある教育活動の充実
- 必要な情報の共有と伝達

### ② 放課後子ども教室の充実

- 学校外での地域と連携した体験活動の重視



## 目標Ⅲ 町民の健康と生きがいづくりの推進

＜関連するキーワード＞ 「元気」「つながり」「ふるさと」「自立」

### 【現状・課題と対応】

心の健康は身体の健康にもかかわりが深い。きめ細かな行政網の整備と地域や諸団体への支援を通して、一人一人の安全はもとより、スポーツや文化・芸能活動など「一人1学習・1スポーツ」をめざした町民の生きがいづくりを進めていく。

### 施策1) 生きがいを高める生涯学習の推進

平成30年度現在、25の生涯学習講座を開講しており、自主講座も盛んである。町民一人一人の持ち味や個性を発揮できる場として今後も一層の充実を図っていく。

#### ① ライフステージに応じた学習の充実

- 各種少年団体、青年団体、婦人団体の育成、支援
- 高齢者国富大学の充実
- 町PTA団体の指導、育成
- 生涯学習講座の充実、自主講座の育成
- 家庭教育学級、子育て講演会の充実

#### ② 特色ある文化、芸能活動の支援

- 芸術文化活動の奨励
- 芸術文化団体の育成
- 文化施設の整備・充実
- 芸術文化活動の発表の機会の提供

#### ③ 「短歌の町づくり」推進

- 「ふれあい短歌大会」の充実
- 町民皆詠をめざす取組の推進

## 施策2) 伝統文化、史跡を活かした町づくりの推進

古墳や民俗芸能等は、ふるさとを心に刻む大切な文化的資源である。フィールドミュージアム事業を核に、発掘を含めたその保護と活用に努めるとともに子どもたちの積極的な関わりを促していく。

### ① 史跡や文化財の保護と活用

- 歴史や文化、史跡・文化財等を活かした町づくり推進
- 町指定文化財、県指定文化財、国指定文化財等の保護と活用
- 児童生徒、町民への広報やふれあい行事等の推進
- 文化財専門委員会、地域文化財調査協力員会の充実
- 町総合文化会館の展示物やイベントの充実

### ② 文化継承活動の推進

- 郷土芸能保存団体の活動支援と後継者育成支援
- 発表の場の充実
- 郷土芸能等の映像保存

### ③ フィールドミュージアム事業の展開

- 古墳等を活かした町づくり活性化
- 郷土に誇りを持つ意識の醸成とガイドボランティアの活用

## 施策3) スポーツ、レクリエーション活動と健康づくりの推進

地区体育会や町スポーツ協会、スポーツ少年団などの組織を中心にスポーツ活動が盛んである。2020年の東京オリンピックを見据えて機運の醸成を図りつつ、町主催のスポーツ大会、健康づくり行事等で、全ての町民の健康づくりを推進する。

### ① スポーツ、レクリエーション環境の整備

- 中央コミュニティーセンター（アリーナくにとみ）、運動公園、その他各種社会体育施設、学校体育施設、レクリエーション施設等の管理と整備及び有効活用
- ニュースポーツなど、町民の多様なニーズへの対応

② スポーツ、レクリエーション指導者の育成

- スポーツ推進委員、体育協会指導者、スポーツ少年団指導者、レクリエーション協会指導者等の研修推進
- 地区体育会の組織化と地区体育の振興
- スポーツ少年団の育成
- 体育協会の育成強化
- 地域指導者の育成・活用

③ スポーツ、レクリエーション活動や健康づくり行事の充実

- スポーツ大会等の充実
- 軽スポーツ、ニュースポーツの振興
- 各種健康づくり活動の充実
- 県外大会等出場者への支援

## 目標Ⅳ 教育を支える体制や環境の整備充実

<関連するキーワード> 「つながり」

### 【現状・課題と対応】

学校教育、社会教育双方にまたがるハード・ソフト両面の管理や環境の整備充実を図っていかねばならない。また、教員の働き方改革についても喫緊の課題である。

町内各教育施設や設備は、「第五次国富町総合計画」に基づく年次的な整備、日常的な維持管理が徹底され、安心・安全な活動環境を提供している。

近年のインターネットを介する情報漏洩問題については、学校をはじめ、教育委員会の情報管理の徹底に努めている。

### 施策1) 質の高い教育を支える教育環境の整備

学校を含む町民の学習を推進するため、人的・物的環境整備に関する目標を各部署相互に共有するとともに、効果的な運営が行えるよう全体的な計画を整備していく。

#### ① 人的・物的整備、働き方改革

- 校務の情報化、地域指導者の活用による教職員の業務の軽減と子どもと向き合う時間の確保
- 町教育研究会等、各種教職員研究・研修組織の支援
- 学校事務の共同実施など学校業務の効率化
- 安全・安心な学校施設の整備
- 新しい教育の流れに対応する教育機器等の導入
- 学校施設や教材・教具の整備
- 学校図書館の整備充実
- 町立図書館・町総合文化会館における蔵書や資料の充実
- NPO法人による町立図書館運営の充実
- 社会体育施設、学校体育施設等の整備

#### ③ 情報管理

- 個人情報漏洩防止のための対策の徹底

- 情報公開の管理体制整備
- ④ 広域的な教育の連携、ネットワーク化
- 隣接市町村との連携推進

## 施策2) 教育条件の整備

教職員の年齢構成は少子化に伴って年々高くなってきている。ベテラン教職員の指導力を期待できる反面、児童生徒の心の理解や新たな教育技術への対応が難しくなっている面も見られる。教員の研究や修養への刺激を常に提供して指導意欲・研修意欲の向上を図るとともに、若手教職員の積極的な活用を図るなどして元気な学校づくり、町の教育づくりをめざす。また、さまざまな問題に対応するための体制を構築する。

### ① 教職員の資質向上

- 学校支援訪問の充実
- 教職員の教育研究支援
- 教職員評価制度の活用
- 県派遣指導主事の効果的な活用
- 町教育研究センターの充実と町内小中学校との連携
- 教育講演会の充実
- 町小中学校教職員研究論文の充実
- コンプライアンス研修、転入教職員の町内視察研修等、研修機会の充実

### ② 教育施設、設備の充実

- 学習指導の充実に係る環境整備の計画的実施
- 学校施設の整備・充実
- ICT教育の推進を図る学習環境の整備

### ③ 相談体制充実

- 町教育相談室と学校との連携強化
- 「国富町ハートフルネットワーク」を核とする関係機関との連携
- 学校における相談体制の確立

## **IV 計画推進にあたって**

### **1 財政的措置**

本基本計画は、「国富町総合計画」との関係を踏まえながら財政措置を行い、計画期間内に適切に実現できるよう重点化を図り、計画的・段階的に実施するものとする。

### **2 町民の意見把握とその反映**

本基本計画で示した諸施策については、首長部局の町づくりの基本方針をもとに、原案をさまざまな手段で町民に提案し、パブリックコメントを集約しながら可能な限り実施と計画見直しに反映させていくものとする。

### **3 計画の改定・見直し**

本基本計画は、10年ごとに見直すことを原則とするが、時代と社会状況の変化に伴って、適宜諸施策についての見直しを行う。

特に、学校教育については、さらに短いスパンでの計画の見直しを進める。

### **4 計画進捗状況の点検・評価**

本基本計画の施策の達成状況等については、年度ごとに作成する「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等報告書」をもってこれに代える。また、町民に対しても教育委員会ホームページを含め、さまざまな場や機会に施策の実施状況や成果について情報提供する。